

ありがとうの気持ちは、 どうしたら伝えられるかな？

～児童総会～

12月11日（水）、全校児童による話し合いの会・児童総会を行いました。通常は、子どもの運営委員会から出された提案を、まず各学級で話し合います。そして、話し合われたことを学級の代表が代表委員会に持ち寄り、決定していくプロセスで行われます。

しかしながら、本校の子どもの実態から、低学年であっても全校の場において、一人一人きちんと自分の考えを持ち、臆することなく話し合うことができるであろうことを踏まえ、総会としたものです。

この時間にみんなが考える内容は、2月末に実施予定の“感謝の会”に向けての取組です。

会では、最初に運営委員会の子どもたちが、感謝の会のめあて「1年間教えてもらったり手伝ってもらったりした地域の方やおうちの人へ“ありがとう”の気持ちを伝えよう」を、全校に提案しました。だれからも反対意見はなく、めあては提案通りに決定です。

続いて、運営委員会から、“感謝の気持ちの伝え方について、全校から募集したい”との話が出されました。アイデアカードとアイデアボックスが既に準備されており、「アイデアカードは、感謝の伝え方のアイデアを書く紙です。みんなのアイデアを書いてください。そして、アイデアボックスにアイデアカードを入れてください」と投げかけています。

担当の先生からも補足説明があり、先生から子どもたちに、「感謝の会で、おうちの人や地域の人へ、どんな気持ちになつてほしいですか」と投げかけられます。すると、子どもたちから、「うれしい気持ち」「頑張ってよかった」「これからもやっていこう」「楽しい気持ち」などの言葉が返ってきます。再び先生が、「このような気持ちになつてもらえるためには、どうしたらよいかな？」と、問い合わせます。

グループの話し合いに入りました。子どもたちの中には、あふれ出てくるアイデアを書きたそうにしている子も見受けられます。その様子を見ていた先生が、アイデアカードを子どもたちに渡すと、次々にアイデアを記入し、アイデアボックスに入れています。一人で何枚も書いている子もいて、さまざまなアイデアが沸き上がっているようです。「1年間教えてもらったり手伝ってもらったりした地域の方やおうちの方へ、“ありがとう”的気持ちを伝えたい」という思いが、子どもたちに大きく膨らんでいます。この日の話し合いは、ここまで終了しました。アイデアの締め切りは17日までに

設定しているので、まだまだたくさんのアイデアを出してくれることでしょう。

今後は、運営委員会が、出されたアイデアを集約し、感謝の会で実施する内容を、全校で決めていく予定です。

感謝の会では、これまでと同様、学習発表は行う予定ですが、学習発表以外で、子どもたちを支えてくださっている皆様に感謝の気持ちが伝えられる取組を、このように子どもたちがアイデアを出し合い、企画し、実施していきます。我々教職員は、子どもたちを信じ、可能な限り子どもたちに任せ、見守ってまいります。



～命のぬくもりを実感して～

12月6日（金）、低学年が、動物とのふれあい体験学習を行いました。この学習のために、自宅で動物を飼育している福井さんが、さまざまな動物を連れて、学校に来てくださいました。子どもたちは、日頃ふれあうことのない動物たちが学校にやってくるので、朝から待ち遠しいようです。

3時間目、運動場にはヤギ、ひよこ、モルモット、うさぎが子どもたちを待っています。子どもたちは、はやく動物たちとふれあいたくて、目が輝いています。

はじめに福井さんから、“運動場にいる動物の種類”“さわり方”“えさ”的説明がありました。



そして、いよいよ動物とのふれあいタイムです。子どもたちは、動物たちが怖がらないように気をつけながら、ヤギにえさをあげたり、モルモットを膝の上に乗せたりしています。モルモットをさわった子が、「もふもふして、かわいい！」と満面の笑顔です。



このように、子どもたちが動物たちと楽しくふれあう中、福井さんは、「うさぎの耳は、遠くの音がよく聞こえるんだよ。敵から食べられないように、身を守るためだよ」等、動物が自分の命を守り、また命を繋いでいく秘密を、子どもたちに教えてくれます。

子どもたちは、動物それぞれの体の温かみや心臓の鼓動から、命のぬくもりを直に感じ、共に生きていく尊さを実感したに違いありません。貴重な時間をありがとうございました。

